

こもれびの森 通信 11月号

2017

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ11月-

～「紅葉の一桧山を歩きましょう」～

11月5日(日)、秋の深まりを見せ始めた一桧山で、歩きながら紅葉を楽しみました。同じような赤や黄色でも、木の種類によりピエローに色が異なることに気がついたようです。子供たちから年配の方まで、にぎやかな散策となりました。山中での昼食時には、当館からトン汁の配達を行い、体も心も温かくなったようです。



〈国見峠駐車場にて〉

～「クズのツルでカゴ編みに挑戦」～

11月19日(日)、今年度最後のイベントとなる「かご編み」を実施しました。材料となる「クズのツル」は科学館職員総出で準備しました。初めてかご編みに挑戦する方から、何度も参加されている方まで、世界に一つしかない作品が完成しました。クリスマス・リースも人気があります。山野で嫌われ者のクズですが、今日に限っては好かれたようです。



〈みんなで鑑賞会〉

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大友さんのコーナーです

“初冬のこもれびの森”

エナガとヒガラ、コゲラの集団が木々を飛び回ります。
①ちっちゃな丸い目がかわいいエナガです。
②ヒガラが国見峠付近で松の実をいっぱい採り貯えています。
③こもれびの森遊歩道でイカルです。歓迎?いや警戒?盛んに鳴いていました。



〈①エナガ〉



〈②ヒガラ〉



〈③イカル〉

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

カタツムリの郷・・・

こもれびの森には数種類のカタツムリがいる。見つけるのは地面を見ながら歩くためキノコ観察の時である。見つける所は朽ちかけたホダ木があるキノコの森で、見つけるのは決まって子供たちである。カタツムリの殻はカルシウムで作られている。カタツムリが雨上がりにコンクリート壁やブロック塀に集まるのは、コンクリートに含まれているカルシウムを摂取するためと言われている。キノコの森にはカルシウムが摂れる所はない。ちょっと不思議である。(は)

〈①黒っぽいのが多い〉

〈②時々、白っぽいのもいる〉

〈③数年前にはオオケマイマイ?も〉



まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～雌雄異花の理由…「ミツバアケビ」(アケビ科)～

山野に自生するミツバアケビは、自家受粉を防ぐため雌花と雄花が別々に咲きます。植物界の受粉の仕組みは、自家受粉と他家受粉に大別されますが、ミツバアケビのように自家受粉を防ぐ種は数多くあります。自家受粉を防ぐため、例えば「雄しべ」と「雌しべ」の成長時期がずれていたり、柱頭が「雄しべ」より長く、「雄しべ」の花粉が絶対に落ちないような仕組みもあります。また、「雄しべ」と「雌しべ」の構造から自家受粉ができない仕組みとなっているものがあります。他家受粉の極端な例は、雌花と雄花が異なる株につく「雌雄異株」で、この種では完全に他家交配し起きない仕組みとなっています。

こうまでして自家受粉を防ぐのは理由があります。それは、自家受粉による近親交配を防ぎ、他の花の遺伝子を取り込むことにより遺伝子の多様性とバリエーションを増やし、より環境に適した子孫を残そうというものです。一つの花の中でうまくやっているように見えますが、「雄しべ」と「雌しべ」の仲は必ずしも良いとは限らないようです・・・(千葉)



〈ミツバアケビ雌花と雄花〉

科学館情報

冬季休館へ

12月1日より冬季休館となります。4月の開館から8ヶ月が過ぎ、周りはすっかり初冬の景色になってきました。今年度も「こもれびの森通信」を滞りなく発行でき、一安心というところです。休館中に館内のリニューアル工事が行われる予定となっています。来年、4月の開館が待ち遠しい限りです。来年もご来館お待ちしております。宮城県こもれびの森「森林科学館」所長 千葉 敬一